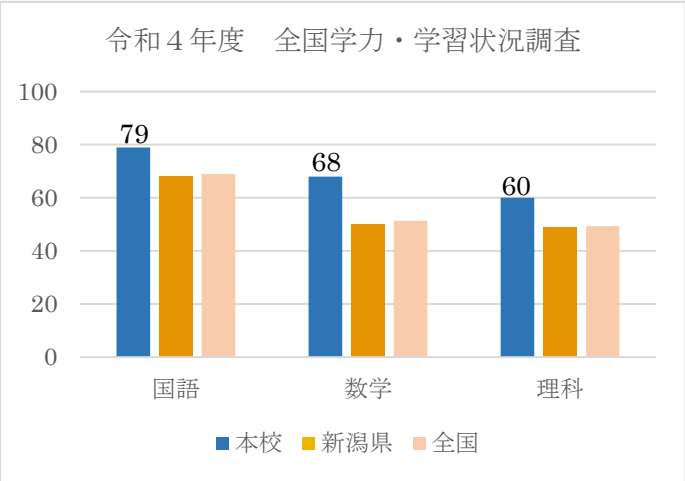
令和４年度　全国学力・学習状況調査
－県立柏崎翔洋中等教育学校の結果と考察－

令和４年４月 19 日実施（３年生対象）

１　平均正答率

平均正答率(%)	国　語	数　学	理　科
本　校	79	68	60
新潟県	68	50	49
全　国	69.0	51.4	49.3



２　全体的な傾向

全国学力・学習状況調査は、今年度４月 19 日に３年生を対象に実施されました。

今回は国語、数学、理科の３教科についての調査と、質問紙によって普段の生徒の学習意欲・学習環境・生活習慣や学校の指導法・ICT を活用した学習への取組等に関する生徒の意識が調査されました。

今回の調査結果により、全体的な調査結果のポイントとして次のことが挙げられています。

＜国語＞

○「書くこと」及び「情報の扱い方に関する事項」（学習指導要領に新設）に係る出題において、自分の考えが伝わる文書になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題が見られる。

○「話すこと・書くこと」に係る出題において、具体的な助言があればスピーチの表現を工夫することはできているが、話し方の工夫について自分で考えることに課題が見られる。

＜数学＞

○「データの活用」の領域において、多数回の試行によって得られる確率の意味の理解には改善の傾向が見られる。一方、学習指導要領において統計的内容が充実したことを踏まえ始めて出題した「箱ひげ図」からデータの分布の特徴を読み取ることに課題が見られる。

○「関数」の領域において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題が見られる。

＜理科＞

○学習指導要用において科学的に探究する学習が重視されていることを踏まえ、探究の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題が見られた分野がある（力の働き、天気の変化等）。

○過去に課題が見られた実験の計画における条件の制御については、改善の状況が見られる。

【国立教育政策研究所 HP より】

詳しくは、国立教育政策研究所のホームページに公開されていますので、そちらをご覧ください。

３　本校の結果の分析と今後の努力点

（１）国語

国語については、県平均を 11 ポイント、全国平均を 10 ポイント上回っています。特に優れている点として、「読むこと」と「書くこと」については、県、全国の平均を大きく上回る結果が出ています。また、国語の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点からも、県、全国平均を大きく上回っており、特に「思考・判断・表現」の正答率が高くなっています。

「読むこと」については、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題」の正答率が最も高く、92％となっており、県、全国の平均を大きく上回っています。新しい学習指導要領で重視されている「対話的で深い学び」の実現に向け、本校国語科で「言葉による見方・考え方」を働かせる授業づくりに取り組んできた成果と考えます。今後も引き続き、対話や討論で自らの読みを多角的に見つめ直し、深められるよう、授業改善を進めていきます。

今後の課題としては、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話したり、書いたりする力を見る問題の正答率が他の問題と比べてやや低くなっているため、話したり書いたりする言語活動を通して語彙を豊かにすることと、自分の考えが伝わるように工夫する力を伸ばしていきます。単元や題材など、内容や時間のまとまりの中で学習を見通し振り返る場面、授業で学んだことをレポートにまとめる場面、ペアやグループなどで対話する場面を授業の中に設定し、表現力の向上につなげたいと考えます。本校生徒にも、このような場面を大切にして自分の力を伸ばしていくことを期待します。

（２）数学

数学については、県平均を 18 ポイント、全国平均を 16.6 ポイント上回っています。本校３年生の数学の学力は、県、全国を大きく上回る結果が出ています。

特に優れている結果が出ているのは関数の領域で、全国平均を大きく上回っています。本校の数学の授業では、１，２年次の学習内容との融合問題や、日常生活に関数を活用する課題を意識的に取り入れて、生徒の興味･関心を高める取組を行っているため、その成果が現れているものと思われます。

観点別に見ると、数学の「知識・技能」を問う問題に対する正答率が全国平均を上回り、出題別に見ると選択式の問題に対する正答率が全国平均を上回っています。本校では習熟度別の少人数クラスを編成して数学の授業を行っていることから、仲間と考えを交流しやすく、教え合い、学び合いの場面での学習内容の定着が図れているものと考えます。

一方､「データの活用」の領域は、県、全国の平均とあまり変わりない結果となっていますが、本領域は繰り返し学習する内容ではないため、復習する機会をさらに設けるように改善していきます。また、記述問題の中には無回答率が２割以上となった問題が２問ありました。積極的に自分の考えを述べることができる生徒がいる一方で、自分の考えをもてないまま授業が進んでしまい、学習内容が定着しない生徒がいることが想定されます。苦手意識をもっている生徒も含め、自分の考えを全員が述べることができるよう、ICT 機器を活用するなどして改善を図って参ります。

（３）理科

理科については県平均を 11 ポイント、全国平均を 10.7 ポイント上回っており、県、全国平均を大きく上回る結果が出ています。領域別に見ても、県、全国平均を上回っており、特にエネルギーの領域で優れた数値が出ています。

観点別に見ると、「知識・技能」を問う問題に対する正答率が県、全国平均を大きく上回り、出題形式別に見ると、選択式の問題に対する正答率が県、全国平均を大きく上回っています。これは、課題や授業内容の復習を通して、生徒が基礎的な知識・技能を定着させることができていると考えられます。

課題としては、「２全体的な傾向」にあるとおり、本校生徒も探究の過程における他者の考えの妥当性の検討や実験計画が適切かを検討し、改善することに弱さが見られます。普段の授業や実験の改善の他、生徒が思考力を向上させられるような課題設定や、ICT を活用し思考を重視した授業の実施などを行っていきたいと思います。

また、後述する学習状況調査の結果にも表れているように、本校生徒は理科に対する興味・関心が高く、理科の授業の有用感も高いことがうかがえます。この結果の一端には、様々な実験を実施し、結果の予想と考察に時間をかけてきたことや、中等教育学校の特性を生かした高等学校の学習内容との繋がりを意識した授業を実施してきたことが関連していると考えることができます。今後も、そういった授業を実施するとともに、日常生活や時事問題と結びつけた題材を取り上げることで、よりいっそう生徒の興味・関心を高めて学習に取り組むことができるようにしたいと思います。学力の向上はもちろん、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育むことができるように努力して参ります。

４　学習状況調査

今回の調査では、普段の生徒の学習状況に関する質問に加え、新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業に伴い、昨年度から急速に進展している ICT の活用に関する質問も出されました。

ICT 関連の質問について顕著だったのは、普段の平日１日当たりどれくらいテレビゲームをしたり、携帯電話やスマートフォンでゲームや動画視聴、ＳＮＳをしたりするかを問う質問において、本校生徒は県、全国平均と比べても使用時間が少なかったことが挙げられます。また、普段の平日１日当たりどれくらいスマートフォンやＰＣ等の ICT 機器を使って勉強しているかを問う質問でも県、全国平均より使用時間が少ないという結果であったことから、本校生徒は、普段 ICT 機器を使用する時間や機会が少ないことがうかがえます。さらに１、２年生の時に受けた授業でのＰＣ・タブレットなどの機器を扱う頻度を問う質問では、県、全国に比べて低い頻度であったという結果になっています。この点については、本校としても昨年度末から週末のタブレットの持ち帰り等を進めたり、授業での ICT 機器の使用頻度を高めたりする取組を行っている最中であることから、今後変化が見込まれます。一方、普段の読書量を問う質問、家庭にある本の量を問う質問、普段新聞を読んでいるかを問う質問では、本校生徒は県、全国より多い読書時間と冊数であったことから、読書等に割く時間が多いため、ICT 機器に触れる時間が少なくなっているという見方もできます。本校の取組としては、読書等を推奨しながら、ICT 機器を効率的に学習に使用して学力を高めていくことができるよう努力を続けていきます。

今回の調査では、国語、数学、理科の３つの教科で調査が行われましたが、それぞれの教科が好きかを

問う質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、いずれの教科も県、全国よりも高い数値を示しました。中でも、特に理科に対する意識が高いことが結果として表れており、理科の授業・勉強に対して「大切だと思う」「内容はよくわかる」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「学習したことは将来社会に出た時に役立つと思う」「将来関係する職業に就きたいと思う」と回答した生徒が県、全国よりもかなり高い割合となりました。また、理科の授業に対する自分の取組み方を問う質問に対しても、計画性をもって考察や振り返りをよく行っているとの回答率が大変高い数値となっています。今後も、各教科において、普段の生活に関わりを持たせた学習内容などで生徒の興味・関心を高められるように、授業改善に取り組んでいきます。

学習に関しては、計画的に家庭学習に取り組めているかを問う質問で、県、全国よりも低い数値となりました。また、休日の学習時間は県、全国よりも多い時間取り組めているものの、平日の学習時間はかなり少ないという結果となりました。このことから、本校生徒は平日の家庭学習の習慣化に課題があると言えます。

学校生活に関しては、「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に９割近い生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しています。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えている生徒の数値が大変高いことから、学校で仲間と関わり、自他の意見を交わし、様々な考え方に触れることに価値を感じている生徒が多いことがうかがえます。

昨年度に引き続き気になった項目としては、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合が県、全国の平均より若干低い結果となっていることです。また、「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対しても、県、全国を下回る結果となっています。

今回の全国学力学習状況調査の結果をふまえ、今後、本校生徒のいいところや個性をさらに伸ばしていけるような取組に力を入れていきたいと考えます。本校のスクールポリシーである“チャレンジナウ”の精神を大切にし、様々なことに取り組みながら自己肯定感を高め、それぞれ自分のよさや頑張りが感じられる活動を推進していくとともに、キャリア教育のより一層の充実を図って参りたいと思います。